



市長の 部屋から

施策や考えを発信

17



「平成25年度当初予算編成がスタート」

先日、平成25年度予算編成の基本方針となる、当初予算編成方針を発表しました。予算編成は、市政推進の最も重要な作業です。そのスタートに当たり、編成方針を明確に示す

ことが、市長の役割の一つです。全体方針を、本市の最重要課題である「少子高齢化社会へのチャレンジ」としました。重点方針は、今年度に引き続き、①「高齢者の健康・安気づ

くり」、②「子育て世代の安心・元気づくり」、③「地域経済の元気・躍進づくり」、④「『まち』の安心・安全づくり」としました。

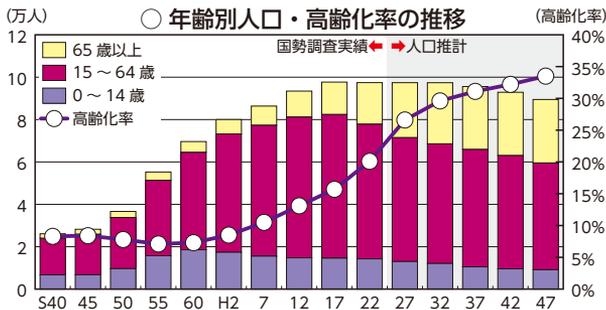
可児市は、今後急激な少子高齢化に伴い、人口減や税収減、社会保障費の増加など、これまでに経験したことのない厳しい状況を迎えます。次の世代に過大な負担を背負わせないよう、20年後、30年後を見据えた施策が必要です。その一方で、夢のある施策も進めたいと思います。これら施策を具体化するものが予算です。限られた予算を効果的に集約して配分するのが重点施策です。しか

し、重点施策でなくても、市民生活のために必要不可欠な事業も進めていかなければなりません。また、平成24年度の予算は、2年連続して起こった水害対策を中心とした、「防災力の向上」を最重点施策としましたが、排水対策事業など、来年度も「『まち』の安心・安全づくり」として、進めていきます。

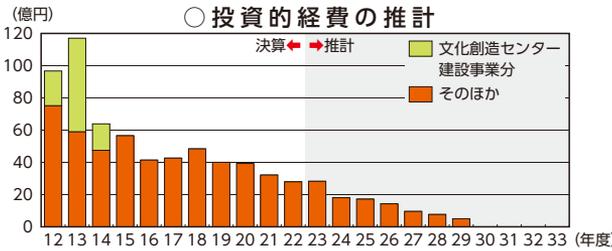
現在、「当初予算編成方針」に沿って、「可児市政 4つの柱と重点事業」を作成しています。その後、10月上旬に各部に対して、予算要求事務の説明会を行います。それを受けて、10月下旬に各部から予算要求書が提出されます。その内容について詳細を聞き取り、課長・部長による内示と復活要求を繰り返したうえで、1月下旬に市長査定をして予算案を決定します。その予算案を、3月の議会で審議していただくというスケジュールになります。

市では、昨年度から予算編成の過程を、節目ごとにホームページで情報公開しています。もちろん本年度も公開します。皆さんからの意見をお寄せいただきたいと思います。

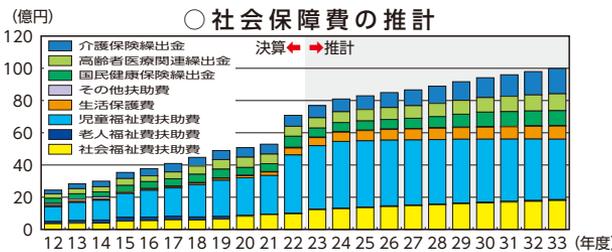
市長 冨田成輝



人口は平成20年10月をピークに減少が始まり、今後は緩やかに減少し、25年後には9万人を割り込む見込みです。一方で、65歳以上の高齢化率は急増する見込みで、25年後には、3人に1人が高齢者になる見込みです。



生活道路や公園、教育施設の建設や改修などの投資的経費は、毎年減少してきました。決算状況では、過去10年間(H12～22)では、47億円減少してきました。(文化創造センター建設事業分を除く)行財政改革への取り組みを行わずに、これまでと同じ率で減少していくと、平成30年度にはなくなってしまう。



児童福祉や社会福祉、介護や医療等に関する経費は、決算状況では、5年間(H17～22)で約19億円(子ども手当の影響分を除く)増加してきました。市全体の予算額から考えると大変大きな増加額といえます。高齢化の進展により、これらの経費はますます増加することが見込まれます。※H22の児童福祉費の大幅な増加は子ども手当の支給によるものです。